

ラム」の各支教室による「ゆめトモ交流プログラム」のNGOである「ミンタナオ」の松原友館長が、同島の紛争の歴史や国内避難民への支援活動（メマ参照）について、現地の映像と共に報告。続いてMCL奨学生が壇上に立ち、紛争や家庭の貧困などに直面しながらも、MCLの支援を受け、宗教や民族の違う奨学生と一緒に勉学に励む様子を伝えた。その後、支教室の青年部員らが、ゆめボクケの作製などに取り組んだ感想を発表した。

最後に、MCL奨学生と青年部員の双方がダンスや合唱を披露するなどして互いの文化への理解を深めた。

「ゆめボクケづくりをもっと頑張りたい」「ゆめボクケを通して、また2019年、船橋教会（千葉県）では、8年前にゆめボクケ親子ボランティア隊でミナナオを訪れた。」

「さきん20周年記念会」が当時ゆめボクケ配付の模様を報告。「『食ユニテ』募金などの平和と活動に積極的に参加できるのも、MCLの皆さまと人々が和と愛し、苦難を乗り越えたことによる姿勢に影響を受けたわかつた。」と語った。

この後、MCL奨学生のジエック・カドゥライさん(22)が壇上に立ち、「ゆめボクケを通して僕を思ってくれる人たち、生きる勇氣が湧いてきます。将来は

大学に進学して電気学を学びたい」と話した。なな、千葉教会（千葉支教会）と青森教会（奥羽支教会）、富士教会（静岡支教会）でも交流が、開催され、MCL×ンバ」と青年部員らは理解と信頼を深め合った。



今回の「ゆめトモ交流クラブ」では、私たちMCCのメンバーに素晴らしい機会を用意して下さった立正正成会の皆さま、深く感謝申し上げます。また毎年、親子で取り組むゆめクラブを主催して下さる、フリスビーのミチタ正子女士に供したゆめボケを届け頂き、本当にありがとうございました。

振替送金、立正校成会へ
「ゆめボケ親立ラブレター」の皆さんへ、ゆめボケを持って初めはシタナナ09年のところ、それから、島にきて下さったのが、たまゆめボケは、そこにたまたまの縁や真心、共に、フ



次世代の「宝」支えるゆめポッケ

と、中身のノリ
と鉛筆を大切に
使って、勉強に
一生懸命に励ん
でいます。青年
になっても、ゆ
めボツケの袋や
使い終わったホ
ールの本を「日
本の友人から」
贈り物だからと
、家で大切に
保管しているの
です。

また、ゆめボ
ツケは、私たち
大人にとっても
生きる希望で
す。それは、子
けの側面が、こ
ゆる側面が、受
ける偏平な愛と
受け取る不平な
大愛を晴らしい
活動だと、思
います。

たとえ異国の人間同士で
言葉が通じなくとも、互いを
知り、理解しようと努力する
気持ちさえあれば、地球上で
仲良く暮らせる。それこそが
世界平和と近づく唯一の道で
あることを、「親子取り組
むゆめボツケ」といった活
動が証明していると言っても
過言ではないと思います。

これから、日本の皆さま
の尊い思いが、このゆめボ
ツケの配付活動によって、フ
ィーンドの子供たちへ明るく
輝けると、MCとしてのご
活動を続けてまいります。

島教会Ⅱは、ゆめ
教会(中国支教会)
ではゆめボック
てはゆめボック
に取り組み3組の
親子が壇上で発
表。この中で
君9Ⅱ広

ミンダナオ島
キバパワン
(ミンダナオ子ども図書館)
ミンダナオ島



日比から世界へ

交流プログラム

MC L 擬学生の声

僕の未来を変えてくれたボツケ

ウォルター・ジョン(18)

今から10年以上前の小学一年生の時、村に多く

今後、お互いの交流を重ねたい

ノルハイヤ・バンディヤン(19)



の兵士がやって来たのを見て体が震えました。ミナタオの紛争を初めて目にしたのです。もう戦争はいやです。フィリピンは、平和で安全な国になんが、平和を願っています。僕の家はカトリックの家庭で、父は農業を営み

母は専業主婦です。主にトウモロコシなどの野菜を売ってお金を暮らしています。家は貧しい、きょうだいがいへ八いて、食事を満足に食へない、ことがよくありました。

12歳の時、MCLの奨学生になった頃ですが、立正佼成会子供供たちがミシナナ寺島に来て、ゆめボクを手渡ししてくれました。

ゆめボクから日本の子供たちの思いが伝わって、温かい気持ちになりました。

ミシナオ島では、16世紀からキリスト教信者とムスリム系住民との間で土地や自衛権をめぐる対立が続いていた。1960年代以降

ミシナオ島でも
ミシナオおとど
ミシナオ図書館
図書館(MCL)

今、大学で自動車関連

はめポケは、僕の未来を
変えてくれたのです。

つづいて勉学に励みたく
入っていたので、頑張
ノートとペン

日本の子供たちの深い愛に心から感謝します。

同時にプロのギタリストになるのが夢です。

将来は社会を驚かしている経営学を学んでいます。

武力衝突が相次ぎ、市民を害す20万人以上が犠牲となった。そのうちM.C.Lは2003年の設立以来、被災住民が暮らす村での医療や生活物資の支援、絵の活動を開かせようとするの活動を展開。

紛争や貧困影響下で暮らす子供たちの提供、奨学金支給、教育の提供。

28日午後、千葉教会千葉妻教区では、ゆめホツケつくりに込めた金和への願いについて、少年部員が発表した。



友好の絆が平和生む

MCL奨学生を招き「ゆめトモ交流プログラム」

私はスリムです。父は川で魚を獲つて汁を売って立てており、母親は専業主婦です。漁業は父の代から続いています。漁業は天候による収入が得られず、きょうろの食いも多くて、10回の釣りで1回も釣れなかったら、高収入が得られず、生活が苦しいです。でも、学校生活は楽しいです。学校生活は勉強と遊びのバランスがとれていて、勉強も遊びも楽しんでいます。学校生活は勉強と遊びのバランスがとれていて、勉強も遊びも楽しんでいます。学校生活は勉強と遊びのバランスがとれていて、勉強も遊びも楽しんでいます。

声が響き渡って人々が涙を
 げ感う光景を、時折思
 出して怖くなります。

今から数年前、MCC
 のスタッフからゆめボ
 ケを受け取りました。そ
 の時、松屋館長から、口
 本で僕たちが貯めたメ
 カを買った物をゆめボ
 ケに詰めてくれる聞き、
 他人を愛する旨いメカ
 おもらしをいただきました。
 明らかに弟たちにあた
 って、ノートは勉強のた
 事に大事に使っていま
 す。

大学卒業後は小学
 校の教師になったが、
 郷に戻り、子供たち
 に勉強を教えるの
 夢です。

「親子で取り組
 ゆめボケの話
 を通じて、フリ
 ンと日本の交
 流が行われ、
 つと行われて
 の祈りが世界
 にまで届くこ
 っています。

●27日、富士教会開
支教区のプログラム



24日、青森教会（奥羽支教区）
 行われた静岡支教区の交流



前 船橋教会 千葉
青年部員らと

